

# 平成30年度 第4次人吉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）報告書

## 人吉市役所における温室効果ガス総排出量等について

### 1 はじめに

本市では、地球温暖化対策に積極的に取り組むため「第4次人吉市地球温暖化対策実行計画」を策定し、市の事務・事業活動に伴う温室効果ガス総排出量を平成33年度（令和3年度）において、基準年度となる平成25年度と比較し3%削減することを目標としています。

このほど、平成30年度の温室効果ガス総排出量等や、取組状況についてとりまとめましたので報告します。

### 2 平成30年度の温室効果ガス総排出量 算定結果

平成30年度における人吉市の事務・事業活動に伴う温室効果ガス総排出量は二酸化炭素換算で3,341トンでした。平成25年度の温室効果ガス総排出量4,634トンと比較すると1,293トン（27.9%）の大幅な減少となりました（図1参照）。

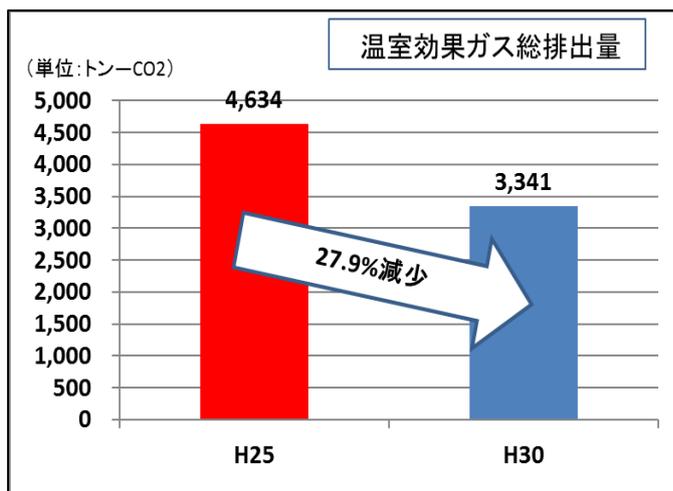


図1 温室効果ガス総排出量

本市においては、平成30年度の温室効果ガス排出割合の約8割（75.9%）を電気使用量が占めていました（図2参照）。

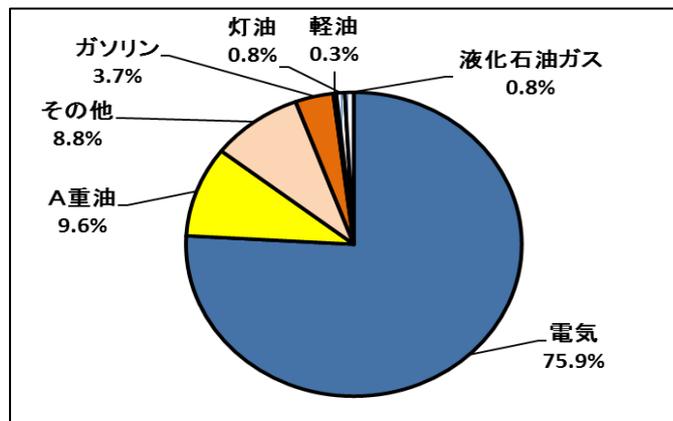


図2 エネルギー使用別温室効果ガス排出割合

### 3 エネルギー等項目別の目標達成状況 について

平成30年度の電気使用量については職員の節電意識と、その取組の成果により基準年度比で480千kWh（7.7%）減少し、目標達成できました（図3参照）。

温室効果ガス排出割合の約8割を占める電気使用量が減少傾向にあることは、温室効果ガス排出の削減に大きく影響しています。

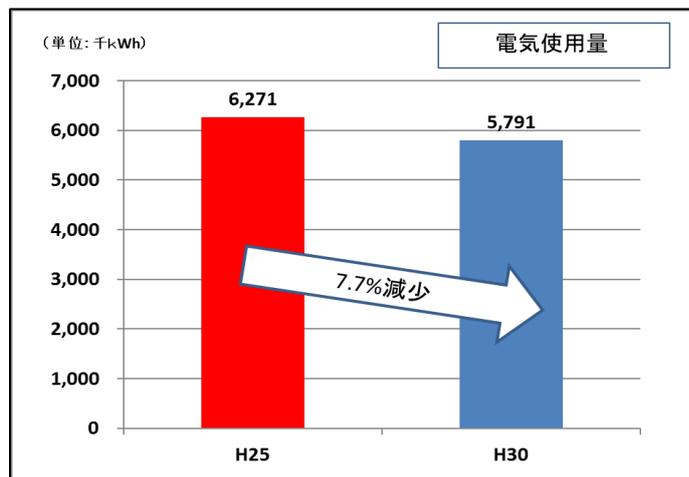


図3 電気使用量

「ガス使用量」「水道使用量」についてもそれぞれ省エネルギーの取組が進み、削減目標を達成できました。

しかし、「紙類使用量」「一般廃棄物」の項目については、目標達成できていません（表1参照）。

「紙類使用量」の増加要因としては、全庁的な事務事業量の増加が考えられます。

「一般廃棄物」は基準年度比8.8%の増加という結果でした。

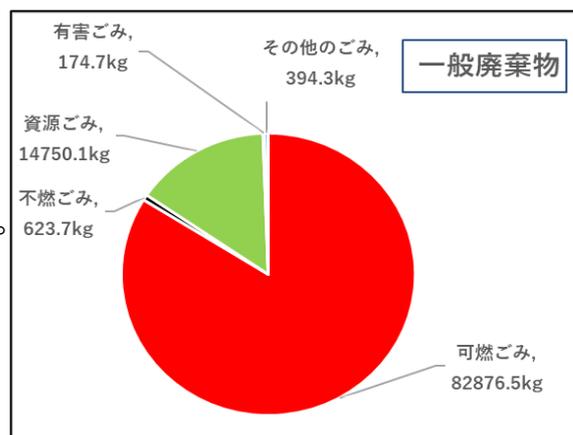


図4 一般廃棄物の内訳

表1 エネルギー項目別目標達成状況

項目	削減目標	平成25年度 (基準年度)	平成30年度	対基準年度比増減
1.電気使用量	3%	6,271,182 kWh	5,790,781 kWh	7.7%減少 (目標達成)
2.燃料使用量	3%	202,879 ℓ	183,628 ℓ	9.6%減少 (目標達成)
3.ガス使用量	3%	13,184 kg	9,717 kg	26.5%減少 (目標達成)
4.水道使用量	3%	103,366 m <sup>3</sup>	92,416 m <sup>3</sup>	10.6%減少 (目標達成)
5.紙類使用量	2%	17,096 枚	18,430 枚	7.9%増加
6.一般廃棄物	2%	91 t	99 t	8.8%増加
7.環境配慮型製品の購入の推進	優先的に購入	職員実践状況チェックリストの平成30年度 (平成31年3月) の回答で、50%以上の職員が実践できていると回答した課等 : 97% (31/32)		

#### 4 まとめ (今後の取り組み)

平成30年度の温室効果ガス排出量は、基準年度比で27.9%の減少となり、昨年に引き続き削減目標の3%を大幅に上回る結果となりました。

この要因は、温室効果ガスの排出割合の約8割を占める電気使用量の減少に加え、温室効果ガス総排出量の算定の際に用いる「平成30年度の電気の排出係数※」が基準年度比で28%減少したことだと考えられます。

しかし、紙類使用量と一般廃棄物に関しては、削減目標を達成することができていません。このため、今後も引き続き、刊行物や会議資料等の印刷部数の適正化に取り組むとともに、ペーパーレス化への取組を実施する必要があります。また、一般廃棄物については、そのほとんどを可燃ごみが占めているため、可能な限り記録等のデジタル保存に努め、潜在的なシュレッダーごみ等を削減する必要があります (図4参照)。

地球温暖化は、日常生活や事業活動などに伴って排出される二酸化炭素などの温室効果ガス排出量の増加に起因しており、生態系や自然環境などに大きな影響を与える重大な環境問題のひとつです。今後とも、3R (リデュース、リユース、リサイクル) の徹底など、目標達成に向けた一人ひとりの継続的、かつ自主的な地球温暖化対策を推進していくことが必要です。

※電気の排出係数：一定の電力を作り出す際にどれだけの二酸化炭素を排出したかを推し測る指標